

「ぶんぶんひろば」における授業の実践  
「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」  
(学芸学部 音楽学科)

## 子どものための音楽会

### 1. ねらい

2011年度から広島文化学園大学学芸学部音楽学科2年次の「演奏活動Ⅰ」（前期：選択科目）、「演奏活動Ⅱ」（後期：選択科目）の実践学習の一環として開催しているのが、「子どものための音楽会」である。月に2回、金曜日の11時30分から12時の30分間、子ども・子育て支援研究センターぶんぶんひろばにて実施している。「演奏活動Ⅰ」「演奏活動Ⅱ」は、子どもを対象とした演奏会について、プログラムの組み方、企画の立て方、しゃべり方、立ち振る舞いを始め、子どもたちをひきつけるためのパフォーマンス力を磨くための科目である。さらに、子どもや保護者の演奏ニーズを把握し、そのニーズに応じた演奏会を開催できるようにすることを目標にしており、学内の実践学習として、未就学児とその保護者を対象とした「子どものための音楽会」を開催している。

### 2. 活動の内容

活動内容は2013年度と同様に、第1回目の講義において、少人数の演奏グループを組み、そのグループごとに、2・3曲の手遊び歌を探すことを課題としている。そして他グループの学生を子どもに見立てて手遊び歌の発表を行うという実践活動をおこなう事で、人前でのパフォーマンスの難しさや、恥ずかしいといった。その楽器編成にあった内容と演出を考え30分のプログラムを作る準備を進めていく。学生らは童謡、唱歌、クラシック、アニメソングなどの演奏ほか、手遊び歌、音楽絵本や紙芝居、ペープサート、ダンスなどの企画を考え、30分のプログラムを飽きさせないような工夫を行っていく。そして、企画が固まり次第、授業内において企画発表をおこない、本番1週間前に通しリハーサルを実施する。学生らは互いに意見を出し合うことでプログラムを仕上げていく。本番当日は、授業の最初に15分程度の簡単なリハーサルと確認作業を行い、会場に移動しセッティングそして本番という流れで実施する。

本番の様子はDVDで撮影し、保護者にはニーズ調査のアンケートを実施している。アンケートはすべて記述式で①プログラムの中で良かった曲、②子どもに聴かせたい曲、③実際に家庭で子どもに聴かせている曲、④子どもの年齢と性別、⑤音楽会の参加回数、⑥自由記述（学生へのメッセージ・要望など）の6項目を設定している。

学生たちは実践後にアンケート集計とDVDの視聴を行い、子どもの反応やニーズ調査の結果をもとに、次の音楽会に向けたプログラム改善を行っている。

さらに後期からは「子どものための音楽会」と並行し近隣の幼稚園、保育園、小学校、児童館での学外実習も行い、未就学児、園児、児童の年齢層の違いによる反応の違いやプログラムの組立て方などを実践的に学べるように設定してある。

現在、参加者は事前に申し込んだ親子30組を限定にした開催としている。

### 3. 2014年度実績報告

2014年度は前期6回、後期6回あわせて12回の「子どものための音楽会」を開催した。前期の履修学生は19名、後期の履修学生は13名である。



写真1 多くの親子が音楽会に参加している様子

写真1は音楽会の様子である。「子どものための音楽会」は4年目を迎え、開催日によって参加人数のばらつきはあるものの、キャンセル待ちが出るような開催日もあり、多くの親子が参加を希望している。

表1 2014年度「子どものための音楽会」実施概要

回	実施日	楽器編成
1	5月16日(金)	2Sax.、2Tp.、Tb.、Hr
2	5月30日(金)	Vo.、Per.、Cb.
3	6月13日(金)	2Cl.、Tb.、箏十三絃
4	6月27日(金)	2Sax.、2Tp.、Tb.、Hr
5	7月11日(金)	Vo.、Per.、Cb.
6	7月25日(金)	2Cl.、Tb.、箏十三絃
7	10月18日(金)	Vo.、Bass.、Pf.、Perc.
8	11月15日(金)	Cl.、Pf.、箏十三絃
9	11月29日(金)	Vo.、Bass.、Pf.、Perc.
10	12月6日(金)	2Sax.、2Tp.、Tb.、Hr
11	12月20日(金)	2Sax.、2Tp.、Tb.、Hr
12	1月17日(金)	Cl.、Pf.、箏十三絃

(実践資料および授業記録から作成)

表1は2014年度に開催した「子どものための音楽会」の概要をまとめたものである。1回から6回が前期履修学生による実践、7回から12回が後期履修学生によるものである。それぞれのグループ毎にテーマや副題を決めて30分のプログラムを組み立てた。



写真2 様々な楽器で効果音を入れたお話音楽の実践

写真2は、大型絵本を使った音楽物語を実践している様子である。どのような効果音がよいか、物語の途中にどのような演奏が可能かを学生たちが授業の中で試行錯誤し、リハーサルでの経験を基に実践活動に活かし、保護者からも好評を得た実践となった。

次の写真3は、実践に向けて子どもたちが飽きないような工夫をするためにイラストを描き、そ

れを子どもたちの目線で眺めることで、視覚的な効果を考えている場面である。学生たちは机上で書きながら見ているイラストと、実際に眺めてみるイラストは印象が変わるということを、体験を通して学んでいる。



写真3 音楽会の準備をする学生たちの様子



写真4 視覚でも楽しめる工夫で子どもたちも興味津々

写真4は、写真3で作成したイラストを使った実践活動の様子である。「ドレミの歌」を演奏しながらイラストで分かりやすく音楽を表し、また衣装にも気ぐるみを着用することで、子どもたちが視覚的にも楽しめる工夫を凝らしている。

前期後期ともにグループ毎に2回の実践があり、1回目の実践の反省点を改繕し、2回目の実践に活かすように指導を行っている。写真2から4は、いずれも2回目の実践の取り組みの様子であり、学生たちが実践を通して直接感じた反省点や、保護者からのアンケート集計の結果、および

DVDでの振り返り学習により、問題点を改善し、より子どもたちが楽しめる工夫を凝らしている様子が窺える。

#### 4. 今後の課題と展望

現在、「子どものための音楽会」は子どもの安全面を考慮し、事前申し込みをした30組の親子を対象として開催しており、キャンセル待ちも多くなっている。しかしながら、金曜日は「ぶんぶんひろば」の通常開放日であることから、音楽会の開催を知らずに来た親子が、入場できない状

況が多々あり、入場できなかった保護者からの不満の声が上がるなどの問題もあがっている。

次年度については、音楽会の開催を「ぶんぶんひろば」の開放日の金曜日ではなく、木曜日に変更することで対応したい。木曜日に開催することで、当日の準備やリハーサルが直前まで可能となり、学生にとっても万全の準備で子どもたちを迎えることができるのではないかと考えている。学生と地域の親子、両者が満足できる音楽会となるよう、これからも指導を徹底したい。

（文責：学芸学部 音楽学科 高橋 千絵）